

今週（8月13日から8月16日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高は週初397兆円台からスタートし、15日の年金定時払い以降は403～405兆円程度と高水準で推移した。無担保コールO/N物は、15日の積み最終日にかけて地銀・証券・信託業態を中心にマクロ加算残高を埋める動きが強く見られ、加重平均レートは先週から更に上昇した。特に地銀の調達ニーズが強く、0%を若干下回る程度の調達も見られたことから、14日の加重平均レートは2016年10月7日以来の▲0.01%台となった。新積み期となった16日は、調達サイドの取り急ぐ動きが落ち着いた事で▲0.05%台まで低下した。ターム物はショートタームで▲0.04%前後の出合いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、16日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額2,307億円（期落ち額2,256億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、概ね▲0.120～▲0.080%程度のレンジで推移した。週初13日のGC T/Nは▲0.120～▲0.100%程度、14日は▲0.110～▲0.090%程度、15日は▲0.100～▲0.075%程度、16日は▲0.085～▲0.075%程度で推移した。

SCは個別銘柄では5y138～140、10y335～355、20y167～169、30y59～63、40y11～12等、カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的に堅調な展開となった。3M物は、ファンディングレートが低下したことから、▲0.120%程度での出合いが見られた。また、6M～1Y物については、債券相場全体が強含んでいたこともあり、6M物で▲0.220%、1Y物で▲0.235%での出合いと強含みで推移した。

14日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.008%、按分落札利回り較差+0.003%と、在庫調整の売りから小甘い結果となった。

16日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.123～▲0.120%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.122%、按分落札利回▲0.1162%とWI取引を反映してしっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.140～▲0.130%出合いと強含みで推移している。

●CP市場

今週のCP市場は、15日・20日発行にあたったものの、多くの事業法人が夏季休暇中であることから、閑散とした市況であった。ノンバンクを中心に小玉の発行が多く、週間総額は、4,200億円程度の償還に対して2,300億円程度の発行と償還超となった。このため、このところ増加基調であった市場残高は、先週9日の21兆9,330億円をピークに、15日時点で21兆7,870億円程度に減少した。コールやレポ市場では積み調整に伴う一時的なレート上昇が見られていたものの、発行レートは引き続き0%近傍の出合いが中心であった。投信業態などは、依然買い余力があるとみられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/12 (月)						
8/13 (火)	20,455.44	△ 0.240	105.43	△ 0.025	△ 0.110	3,975,900
8/14 (水)	20,655.13	△ 0.225	106.36	△ 0.019	△ 0.104	3,971,200
8/15 (木)	20,405.65	△ 0.242	105.93	△ 0.020	△ 0.088	4,050,900
8/16 (金)	20,418.81	△ 0.240	106.15	△ 0.057	△ 0.089	4,031,100

来週（8月19日から8月23日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/19 (月)	7月の貿易統計(財務省 8:50) 6月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 19,000億円 8/20発行			7月のユーロ圏消費者物価指数改定値
8/20 (火)		20Y 9,000億円 8/21発行			
8/21 (水)		交付税借入 10,500億円 8/30借入			7月の米中古住宅販売
8/22 (木)		流動性供給 6,000億円 8/23発行			
8/23 (金)	7月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 42,600億円 8/26発行			7月の米新築一戸建て販売件数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/19 (月)	900	▲ 2,400	▲ 1,500	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入	▲ 2,300 ▲ 200	4,700 2,300 100	4,600	3,100	TB3M発行▲43000償還39800
8/20 (火)	0	▲ 9,000	▲ 9,000				0	▲ 9,000	TB1Y発行▲19000償還7100 エネルギー借入▲6500期日6000
8/21 (水)	0	▲ 11,000	▲ 11,000				0	▲ 11,000	20Y発行▲9000
8/22 (木)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	交付税借入▲10500期日10500
8/23 (金)	0	▲ 6,000	▲ 6,000	被災地支援	▲ 900		▲ 900	▲ 6,900	流動性供給▲6000
週間合計	▲ 100	▲ 27,400	▲ 27,500	—	▲ 3,400	7,100	3,700	▲ 23,800	

8/19は日銀予想、8/20以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期序盤であることから、無担保コールO/Nレートは横ばいで落ち着いた動きとなることが予想される。レポ市場は、GC O/N物は、▲0.110～▲0.070%程度での推移を予想する。短国市場は、19日に1Y物、23日に3M物の入札が実施予定となっている。引き続き需給環境の改善が見られるかどうか、市場動向が注目される。CP市場は、夏季休暇明けの事業法人の資金調達再開の動きが予想される。また、市場残高が2008年以來の22兆円台に到達するか、注目が集まる。

主要なイベントとしては、23日に7月の全国CPIなどが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入